Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第5号

NPO 特定非営利活動法人
日本雲南聯誼協会事務局
〒193-0834　東京都八王子市東浅川町 879-10
TEL(0426)69-1677，FAX(0426)69-1678
http://www.soyi.co.jp/jyfa
編集・発行人　初鹿野惠蘭
2001年12月25日発行

医療と教育を視察

北原茂実理事は北原脳神経外病院の理事長であり、10 年前から中国との医療交流が始まって以来、いまも毎年大連と長春の看護婦を無償で招聘し、北原脳神経外科病院で研修を行っています。

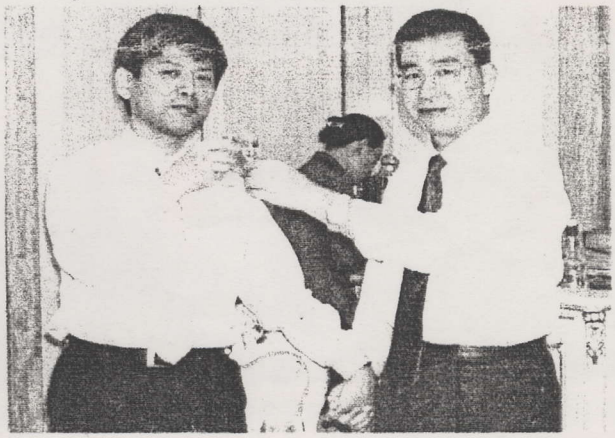
理事の理念は、より良い技術・設備・サービスの提供や低費用を目標に一般市民が利用し易い施設を作ることです。医療に携わるものとして体の治療だけではなく安らぎを与え、心身ともに健康になってもらえるような環境を作るべく、現在八王子でその理想的なモデル施設「北原脳神経外病院」を経営して居られます。

大きな夢としては、日本のみならず目を世界、特にアジア地域に向けて人々が同水準の医療を受けられる環境を作り、人々が満足する医療にしたいという意図で今回雲南へ視察に行きました。

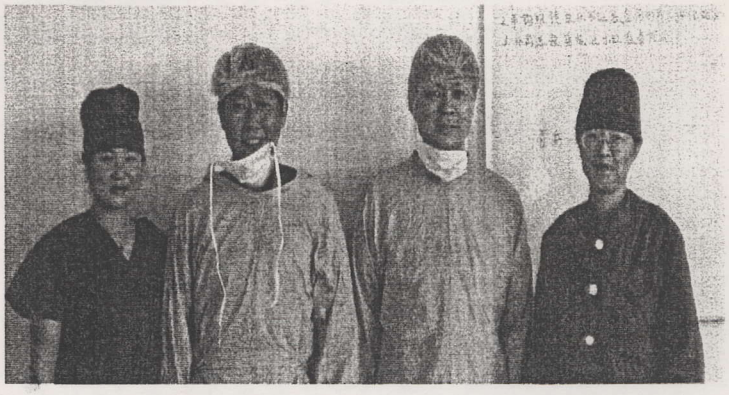
昆明医学院の副院長はじめ脳神経外科専門医師達との医療技術についての懇談会を終えて
（前列左三番目が副院長、右隣北原理事
昆明医大において）

限られている１週間の間、雲南省の主要な病院、昆明市第一人民病院、延安病院、雲南省赤十字病院、昆明医学院付属第一病院、第二病院、チベット族自治州の人民病院など７つの病院を、良い点も悪い点も視察されました。

その間に今年完成した吉能小学校へ訪問し、更に来年完成予定の小学校建設現場も見て来られました。



昆明市市長　章　振国氏（右）の歓迎を受ける北原理事
昆明で脳神経外科病院を作りたいという北原理事に対して、市長が全面的な協力を約束されました

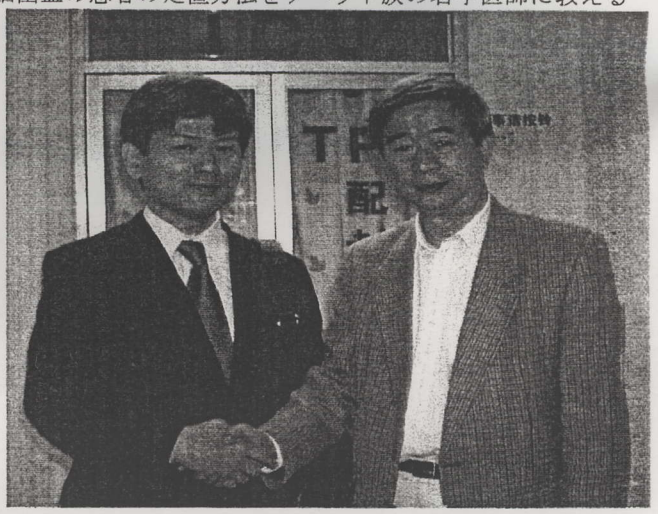


昆明市延安病院のＩＣＵを見学
高副院長と看護婦さん（右二番目北原先生）

理事は10年ぶりに中国の奥地へ行く共に、初めて見る発展中の雲南省に驚いていました。中心部と農村の貧富差、医療システムの未整備はひどく、特に脳神経外科の医療技術と人材不足は甚だしく、政府の貧困地域教育に対する政策が問題ではないかと痛烈に感じられました。病院と教育現場を視察した際に、理事は何かの形で雲南省のために力を注ぎたいと思われたそうです。病院を通じて雲南省の医療向上と人材育成の力添えをしたいと考えて居られています。

医大病院で真剣に患者さんの写真を見る両医師

脳出血の患者の処置方法をチベット族の若手医師に教える



雲南省赤十字病院院長　林　世潔と

吉能小学校の子供達との触れ合い

「教育・司法・医療」

理事は、民族の存続と良い社会になるためには、**教育・司法・医療**の３つが大事なことと考えています。私は今回の視察で医療に対する認識と自分自身いままで活動した価値観が更に一致した気がしました。

私は自分の使命だと思って今日まで活動して来ました。６年前、麗江大地震の時に玉龍雪山の近くに暮らす少数民族の子供たちの顔を未だに忘れません。誰かに頼まれてやっているわけでもなく、名誉や自分の利益を考えたこともありません。最大の目的である貧困民族教育に対する小さな支援を、出来る範囲で援助してあげたいと思っているだけでここまでやってきました。我々の支援で、学問や知識を身につけて自分達の力で強く生きてもらいたいと思っています。

今の中国は大きく変わろうとしています。社会政策、教育、様々な問題が整えられるまでは当分時間が掛かるでしょう。

しかし、どこの社会でも様々な問題がありますが、その欠けている部分を少しでも解決していくことが私達一人一人の使命ではないでしょうか。理想の環境をつくるには表面だけではなく多方面から理解して大きな気持ちで、且つ長い目で見て行きたいと思っています。

私は自分の思想を行動で実行していく事が良い効果を生み出せると確信しています。これからも皆様と共に一生懸命、世の中ため人のために皆様のご理解を頂きながら頑張って行きます。

（初鹿野惠蘭）

教育交流
日本と雲南
会員からのリポート

小さな一歩

歌川栄子

去る11/23～11/26、私の所属する多摩市国際交流センターが、パルテノン多摩に於いて、第3回国際フェスタ in 多摩を開催しました。

今年のテーマは、「オセアニア・南十字星の国々へようこそ」でしたが、テーマとは別に、市内の小・中・高校生による国際交流体験の展示コーナーがあり、当協会が支援している、雲南省中甸の吉能小学校と多摩市立大松台小学校との交流の様子が展示されました。10月、私が親しくさせて頂いている、大松台小学校の小野寺校長先生を初鹿野理事長と一緒に訪問し、子供達の交流を提案したところ、校長先生も、「子供達に国際理解を深める為の場を設けたいと思っていた」と、快く賛同して下さいました。　大松台小学校の一年生の皆さんが、担当の先生の指導のもとに、大きな紙に描いた「花火」「玉入れ」そして「折り紙」の作品を、10月中旬、初鹿野理事長から吉能小学校に届けて頂きました。

初鹿野理事長と北原理事から、大松台小学校の子供達が一生懸命書いた画を、吉能小学校の子供達の手元に届けました。

吉能小学校の子供達の手紙と画が第3回国際フェスタ in 多摩に展示されました

そして、首を長くして待っていた吉能小学校の子供達から、思い思いの紙に描かれた絵や手紙がたくさん届きました。ほとんどの子供達の手紙には、「あなた方のご支援に、本当に感謝しています。一生懸命勉強します。」と書いてありました。

4月に吉能小学校を訪れた私は、あのキラキラ輝いていた子供達の顔を想い出して、目がうるうるしました。大松台小学校の子供達や先生方は、自分達の作品が海を渡って遠い国（雲南は遠い）の友達に届けられ、皆に見てもらったことを写真で見て実感し、「本当に行ったんだ！」と、大変喜んでいました。今、その絵や手紙は、大松台小学校に展示され

ています。「アームストロング船長ではないですが、これは「小さな一歩」の始まりです。少しずつ育っていくのを温かく見守り協力していきたいと思っております。

協会として初めて多摩国際フェスタに参加しました

写真左から初鹿野理事長　羅　明会員と歌川栄子会員

また、国際フェスタでは、ボランティア組織による活動を知って頂くための展示コーナーがあり、協会も参加しました。理事長をはじめ、会員の中村さん、高山さん、蒋さん、民族衣装を着てくれたナシ族の羅　明さん、タイ族の踊りを見せてくれた楊景然さんが、協会の活動をアピールしてくれました。各団体同志の交流も盛んで、お互いに名刺を交換して、今後に繋げていこうと話しました。

これも「小さな一歩」です。

❀❀❀

ています。「アームストロング船長ではないですが、これは「小さな一歩」の始まりです。少しずつ育っていくのを温かく見守り協力していきたいと思っております。

協会として初めて多摩国際フェスタに参加しました

写真左から初鹿野理事長　羅　明会員と歌川栄子会員

また、国際フェスタでは、ボランティア組織による活動を知って頂くための展示コーナーがあり、協会も参加しました。理事長をはじめ、会員の中村さん、高山さん、蒋さん、民族衣装を着てくれたナシ族の羅　明さん、タイ族の踊りを見せてくれた楊景然さんが、協会の活動をアピールしてくれました。各団体同志の交流も盛んで、お互いに名刺を交換して、今後に繋げていこうと話しました。

これも「小さな一歩」です。

❀❀❀

企業家の協力を期待する

杉谷隆志

地球上に生きる人々は互いに他国の文化を尊重し、住民を敬愛すべきである。国際化が進むにつれて、それぞれ縁があって他国との友好交流に力を注ぐ団体が増えてきた。私は水墨画をたしなむ関係から、書画の国、中国の自然や文化に魅かれ、取材すると同時に友好交流に熱を入れ、二十余年が過ぎた。昨年初め、縁があって初鹿野女士を知り、その情熱に惹かれ、日本・雲南聯誼協会設立に協力し、私の日中友好活動はさらに密度を濃くした。他国を歩いて自国を知る、他国の友人と語らい自分を悟る交流は愉快だ。

しかし、こうした活動はボランティアで、ほとんどの団体が運営資金に苦しんでいる。ボランティアだけでは長続きしない。事務局経費もなくて、活動を広げるのは困難だ。企業の資金に比べれば微々たる額だが、最低の運営資金をどうして得るかを悩んでいる。

国と国との友好は、このような民間善意による文化交流に負うところが多い。ならば国の援助があって当然だが、無視している。企業はどうか。他国との連携の陰にはこうした友好交流の潤滑油が日本のイメージアップを果たしているのに、収益の追及に汲々として、気がつかない。メセナは根付かぬまま、死語と化した。民間のボランティア交流を取り込んで企業イメージを高めながら社運を上昇させる経営戦略があってもよいのに。

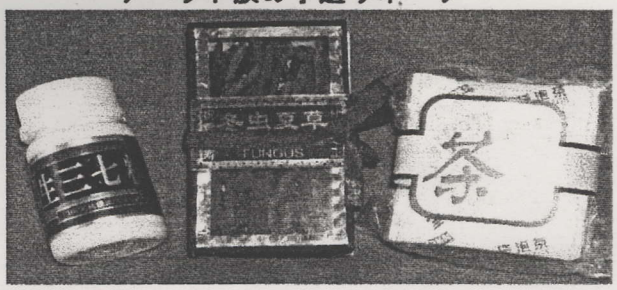
野鳥の会というのがある。詩人の中西梧堂が始め、利財を投じてボランティア活動をしたが、行き詰まった。詩人だから、商売をしたくなかった。その後、営利事業に踏み切り、野鳥視察の道具をいろいろ開発して販売をし、全国組織に急成長した。野鳥保護の意識も全国的に高まり、自然保護の実効も上げられるようになった。営利本位に走らず、運営資金を確保する企画力が問われてくる。

雲南省には魅力的な物産が限りなくある。プーアル茶のほか、多数の健康茶、松茸や幻の茸。日本人に欠かせない蕎麦、東洋蘭ほか原種の植物。

少数民族の美しい意匠の衣装や手工芸品。民謡、舞踊、絵画、ナシ族のトンパ文字、田七。特効人参ほか漢方薬。訪問すれば、さまざまな物産に出会えるだろう。これらの何かを商品化する企業家が現れて欲しい。その場合、中国政府の格別の支援を願いたい。我々は運営資金が得られればよい。余った利益は企業家が持っていけばよい。とかく企業は、低人件費狙いで中国進出をはかるが、もっと日本、中国の文化をつなぐ事業がより重要である。

協会事務所は、雲南省の特産物を展示しております。ご興味のある方は協会までお問い合わせ下さい。

チベット族の手造りポーチ



田三七粉　冬草夏草　田三七茶

プーアル茶　雲南ハム　薔薇茶　ジャスミン茶

楽しい時間を過ごした忘年会

12月16日遠方からの人も含め約５０名の参加者が集まり、発足以来初めての忘年会が池袋の大福来で開かれました。

杉谷専務理事の「私が知るあまたの団体のなかでも、一年半という短時間に数々の成果を挙げた例は多くない。これも会員を始め関係者各位の協力のお陰だと感謝している。」との挨拶に続いて、唐澤理事からは協会の来年の活動（昆明で日本語教室と経営工学セミナー開講）の内容を皆さんに報告をして頂きました。

ご来賓代表として、中国大使館参事報道官の黄星原さんは「ベトナム国境近くで、一年間県知事をしていた間に、奥地の貧しい人々の暮らしを沢山見て参りました。貧しい雲南の教育環境に対し、無償の援助をして下さっている皆様に中国を代表として心から感謝し、この場を借りで御礼を申し上げます。援助された子供達は、一生、日本の方々のご好意を忘れないことでしょう。」と挨拶されました。

出席者の中には、初鹿野理事長や役員が初対面の会員も多く、理事長が一人一人に挨拶に廻り、この機会に協会を支えて頂いた、感謝の気持ちを伝えることが出来て満足された様子でした。会員同士普段なかなか話す機会が少なかったのでこの様な機会に交流が深められ本当に良かったと思います。

今回の忘年会で、大福来の市川社長と匿名を希望の方から多額の寄付を頂きました。本紙を借りて御礼を申し上げます。

忘年会で会員たちが楽しんでいる様子

雲南のイ族、バイ族の民族衣装を着て出席した会員

学校

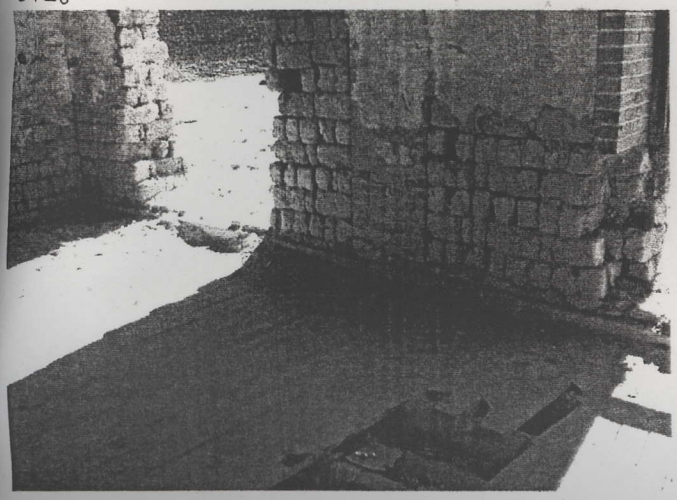
「熱水池」の子供達へ夢のフルセット

日本・雲南聯誼協会を設立後1年半が経ち、各界からの温かいご支援を受けながら、有意義な活動を続けて来ることが出来ました。

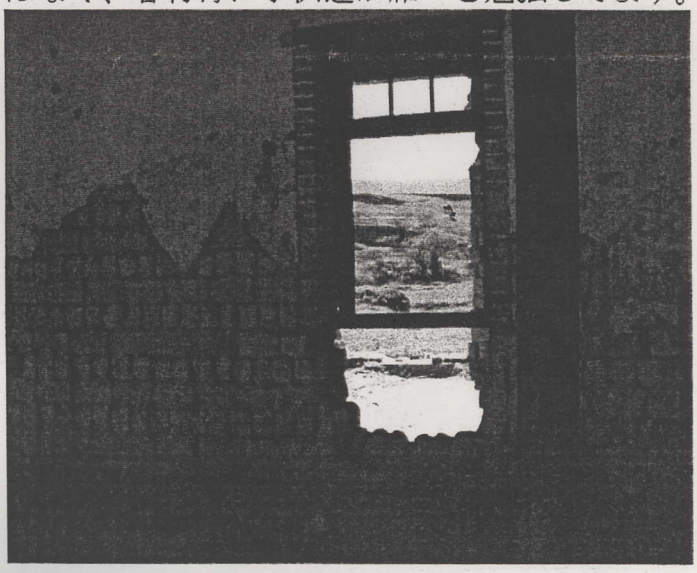
今年10月、「日本国際協力財団」から、180万円の助成金を受けることができ、この助成金で来年7月、協会としては第3番目の小学校を建設、寄贈することになりました。

現在の熱水池小学校の校舎

10月中旬、初鹿野理事長と北原理事の二人は建設予定地を視察し、雲南省迪慶チベット族治州中甸県の「熱水池」に決定しました。現在の校舎は写真の通り土壁で造られており窓付近の壁は崩れ落ちてしまい、とても授業できる状況ではなく、各村毎に子供達が細々と勉強してます。



↑ひどく老朽化している教室内の様子→



校長先生から事情を聞いている初鹿野理事長

この小学校が出来ることで、3ケ村、80人の子供が勉強出来る環境が整うようになりました。現在、建築の打ち合わせや、建築図面が進行していることを、会員をはじめ支援して下さった方々に大きい喜びを以ってご報告致します。

来年七月の竣工時には、是非皆さんとご一緒に、開校式典に参列することが出来れば幸いと思っております。

尚、最後になりましたが、本紙を借りて、日本国際協力財団にお礼を申し上げます。

福貢県馬吉郷小学校の藁葺き屋根から セメント瓦葺き替えのご支援お願い

雲南省怒江州福貢県馬吉郷碧単羅社(村の単位より小さい集落)は、高原と山岳地区である。少数民族独自の生活を守ってきた特別な地域で、自然環境も厳しく、人々の生活は苦しく、人としての資質も低くなっています。碧単羅社の人口は135世帯で657人が生活しており、そのうち小学生の適齢が来ている子供は72人がいます。厳しい自然条件によって地元の人々の生活は非常に困っている。今現在、碧単羅社の約40%の人は、食べることも着る物も不足しているので教育に大変力不足を感じております。

碧単羅小学校は、1982年に建てられてから政府と社会各界の方々の支持と関心及び生徒達の努力によって、少しずつ大きくなり地元の経済と社会事業発展の促進に役立っています。

現在の学校は65名の在学生3クラスと先生2名であり、校舎といっても藁葺き屋根二棟の教室で狭くて暗く、雨が降ればとても授業をするところではなくなる。もっと大変なことは2年か3年に一度、屋根を葺き替えらければならず地元の皆さんに大きな経済負担となっています。

辺境民族地区の人々は、文盲の人が大勢いることから、基本的な義務教育の普及と発展を図らなければならないと考えています。先ずは、環境整備として藁葺き屋根から石綿スレート屋根に葺き替えをしたいと思っていますが資金もなく困っています。つきましては、皆様方の教育に対する温かいご支援を是非お願い申し上げます。

校舎の前に立つ教師と子供達

写真の校舎をご覧ください。今にも崩れそうな粗末な建物です。日々このような環境の中で勉強をしているのです。協会として来年中に視察する予定になっています。その後の経過につきましては会報などで皆様へご報告いたします。

小さな校舎と校庭

来年度の教育支援活動として2つの小学校の建設を計画しておりますが、この小学校はその内の1校です。ここは山深く自然条件の厳しいところです。